

資料へのお問合せ先

奈良市教育委員会 教育総務部
文化財課 史料保存館
電話 0742-27-0169

史料保存館 企画展示

尾花座-芝居小屋から映画館へ-

史料保存館では、保管する史料を活用した企画展示を実施しています。今回は明治 30 年代には開業していた奈良でも老舗の劇場、尾花座について紹介する展示を企画しましたので、ご案内いたします。

尾花座は、明治 42 年（1909）に建物を大改修後、当時人気の歌舞伎や演劇などを上演しました。大正 9 年（1920）からは映画館「尾花劇場」として、昭和 54 年（1979）の閉館まで多くの話題作、名画を上映して人々を楽しませました。その歴史は、演劇から映画へと広がっていく、新しい娯楽の発展とともに歩んできたものと言えるでしょう。映画はテレビの普及などで衰退を余儀なくされますが、近年は文化としての映画の価値を再評価する動きが広がり、各地で映画祭などが行われています。奈良でも 2 年に一度の映画の祭典「なら国際映画祭 2018」が今年 9 月 20 日から 5 日間開催されます。

史料保存館では、「なら国際映画祭」の開催にちなんで、奈良町の娯楽の中心地のひとつとして多くの人々に愛された尾花座に残る芝居と映画関係の史料を展示して、奈良の大衆文化史の一端を紹介します。

1 開催概要

会 期 平成 30 年 7 月 24 日（火）～10 月 8 日（月）

開館時間 午前 9 時半～午後 5 時（入館は午後 4 時半まで）

※ 8 月 10 日（金）～12 日（日）は
午後 9 時まで開館時間延長
8 月 18 日（土）・19 日（日）は
午後 8 時まで開館時間延長

休 館 日 月曜日・祝日の翌平日（祝日は開館）
（9 月 18 日（火）・25 日（火））

入 館 料 無料

会 場 史料保存館 展示室（奈良市脇戸町1-1）

展示解説 史料保存館で、館員による展示解説を 2 回行います。約 30 分の予定。申し込みは不要です。



史料保存館・奈良町にぎわいの家の場所

[日時] ① 8月11日(土) 午後1時半～ ② 9月11日(火) 午後1時半～

2 展示の見どころ

今回の展示では、明治45年(1912)に尾花座が奈良劇場株式会社という会社組織になってから、大正9年(1920)に映画館となり、昭和54年(1979)に閉館するまでの期間の史料を展示します。

まず、芝居小屋だった大正9年までの尾花座の史料として、興行の成功祈願、あるいは成功記念として掲げられた奉獻額を展示します。奉獻額には演目や出演者、興行・劇場関係者までその興行に関わった人名が詳細に書き込まれていて、近代の興行記録としても貴重なものです。尾花座には明治42年から大正10年まで21点の奉獻額が残っていますが、今回はそのなかから3点、明治45年(1912)の奈良劇場株式会社設立記念興行として行われた歌舞伎公演の額と、奈良の新聞4社(大和新聞 新大和 奈良新聞 奈良朝報)の記者有志が演じた珍しい文士劇の額を展示します。そして映画館となってから中野商会によって奉獻された、大正10年(1921)上映の無声映画「実録忠臣蔵」の額を展示します。

(※映画「実録忠臣蔵」奉獻額は7月24日(火)～9月2日(日)まで、文士劇奉獻額は9月4日(火)～10月8日(月)まで展示)

映画館となった尾花劇場の史料では、上記の奉獻額とともに、上映映画のポスターや作品解説のプログラム、映画のスチール写真など30点あまりを展示します。

日本最初のトーキーとされる「マダムと女房」や林長二郎(のち長谷川一夫に改名)主演の「雪之丞変化」などを解説した昭和初期のプログラム、戦後まもなく上映され、記録的な大入満員となった映画「愛染かつら」や「君の名は」のスチール写真やポスター、また溝口健二監督「女性の勝利」(昭和21年 1946)、野村芳太郎監督「太陽は日々新たなり」(昭和30年 1955)は奈良で撮影が行われており、その様子を写した少年刑務所付近や荒池畔でのロケ風景写真も展示します。

また洋画では、昭和48年(1973)爆発的にヒットした「燃えよドラゴン」のスチール写真・ポスター、閉館が決まり「さよなら尾花座・市民のつどい」で上映された「エデンの東」のスチール写真を展示します。

これらの展示品は一部が雑誌や本などで紹介されたことがありますが、実物を展示するのは今回が初めての機会となります。

3 展示関連イベント

① なら燈花会にあわせて開館時間を延長します。

玄関正面でろうそくを点灯し、開館時間を午後9時まで延長します。

日 時 8月10日(金)～12日(日) 午後5時～9時

② ぐれーとさまーふえすた☆ならまち遊歩の全期間中、玄関正面で提灯を点灯します。

期間中の2日間、開館時間を8時まで延長します。

提灯の点灯期間 8月17日(金)～26日(日)

開館時間の延長期間 8月18日(土)・19日(日) 午後5時～8時

③ にぎわいの家出張展示「タイムトラベル奈良町～尾花座～」

「尾花座-芝居小屋から映画館へ」展開催に合わせ、奈良町にぎわいの家において、展示に関連した史料の一部を出張展示し、あわせて史料保存館員による史料解説を行います。

日 時 9月15日(土) 午後2時～4時

(館員による展示解説は午後2時から30分程度)

会 場 奈良町にぎわいの家(奈良市中新屋町5)

費 用 無料 申 込 不要

4 広報

しみんだより（7月号）、市ホームページ、チラシ配布、twitter、関西文化.com、歴史街道推進協議会への情報提供、周辺施設への広報

主な展示予史料 ※（１）（２）以外は全期間展示します。

（１）映画「実録忠臣蔵」上映奉獻額 大正10年（1921） 個人蔵

（※展示期間：7月24日（火）～9月2日（日））



大正10年4月20日から29日までの10日間、牧野省三監督の日活映画「実録忠臣蔵」が上映されました。これはその大入満員成功記念に奉納された、尾花座に残る最後の奉獻額です。主演の尾上松之助などの出演者、弁士などの劇場関係者や裏方の名前が書かれています。

（２）文士劇尾花座公演奉獻額 明治45年（1912） 個人蔵

（※展示期間：9月4日（火）～10月8日（月））



奈良市の新聞4社（大和新聞 新大和 奈良新聞 奈良朝報）の記者による文士劇の奉獻額です。収益は消防設備の充実のために寄付されました。演目は「先代萩」などの歌舞伎を演じています。原稿用紙を模して罫線を引き、活字体で書かれた文士劇らしい奉獻額です。

（３）尾花劇場外観 大正～昭和（1920年代） 個人蔵



大正9年（1920）に尾花座は中野商会に譲渡され、尾花劇場となりました。「座主中野」の幟がたち、入口真上の屋根には染幕をめぐらした芝居小屋の象徴である櫓（やぐら）が見えます。

（４）尾花劇場「オバナニュース」（「マダムと女房」「生き残った新選組」） 昭和7年（1932）

個人蔵



昭和初期の尾花劇場で上映された映画を解説したプログラムです。「マダムと女房」は昭和6年（1931）松竹制作で、日本最初のトーキーとされる作品です。

(5) 尾花劇場のにぎわい 昭和 21 年 (1946) ごろ 個人蔵



戦後に「愛染かつら」を上映した時の尾花劇場の様子です。北は猿沢池・五十二段、南は御所馬場まで長蛇の列が続く大盛況でした。

(6) 「女性の勝利」ロケ風景写真 昭和 21 年 (1946) 個人蔵



溝口健二監督「女性の勝利」が、奈良少年刑務所（現在の重要文化財旧奈良監獄）で撮影された時の写真です。溝口監督が戦後の女性の自立・解放をテーマとした「女性解放3部作」の第1弾として発表しました。

(7) 「続二等兵物語」・島倉千代子来演予告のチラシ 昭和 34 年 (1959) 個人蔵



伴淳三郎と花菱アチャコのコンビによる喜劇「続二等兵物語」のチラシの右端には、島倉千代子の来演予告が掲載されています。尾花劇場では昭和 34～38 年ごろまで実演と映画の 2 本立て興行を 5、6 回行っていきます。昭和 34 年に島倉千代子が来演したときには、1 日 4,000 人の観客が入りました。

(8) 尾花座記念碑 昭和 56 年 (1981) 個人蔵



尾花劇場の閉館後、有志により建てられた記念碑です。尾花劇場の跡地に建つホテルサンルート奈良の前にあります。落語家桂米朝の揮毫で「われらが尾花座 ここにありき」と刻まれています。

※この報道資料に掲載している写真は、データ提供することが出来ます。
問い合わせは広報戦略課へ。